



KMU 金沢医科大学氷見市民病院

| 広 | 報 | 誌 |

かけはし

氷見

KAKEHASHI



患者さんと病院と
地域をつなぐ広報誌

TOPICS ● トピックス

新年のご挨拶



KANAZAWA MEDICAL UNIVERSITY
HIMI MUNICIPAL HOSPITAL

病院正面入りの門松

CONTENTS ● もくじ

TOPICS 新年のご挨拶	P.01
特集 手術室ってどんなところ?	P.03
診療コラム	P.04
病院★ニュース	P.05
病院からのお知らせ掲示板	P.06
まちかど情報	P.07

病院の理念

私たちは「生命の畏敬」を医療活動の原点として
次のような病院を目指します。

- 医療人としての研鑽に励み、患者さん中心の医療を実践します。
- 住民の健康と生命を守る中核病院として、安全で質の高い医療を提供します。
- 地域の医療機関と協力し、地域の医療福祉の向上に貢献します。
- 将来の地域医療の担い手となる有能な医療人を育成します。



新年のご挨拶

最高経営責任者（CEO）

松本 忠美



新 年明けましておめでとございます。

今年の12月は暖冬といわれるほど暖か、この年末から年始にかけて寒波が襲来して雪が降りましたが、比較的穏やかな正月を迎えました。

さて、昨年を振り返ってみますと、中国地方の豪雨、関西地方を襲った巨大台風、大阪および北海道を襲った地震などの災害があり、北陸地方も3回の大雪に

みまわれ大変な思いをいたしました。2018年の世相を表わす漢字として「災」が選ばれたのも理解できると思います。その様な中で、良いことも多々ありました。医学の分野においては、本庶佑（ほんじょ・たすく）先生のノーベル医学・生理学賞の受賞、スポーツ界においては、大谷翔平選手が二刀流で大リーグの新人王を獲得し、平昌の冬季オリンピックにおけるスピードスケート、フィギュアスケートなどでも日本選手が活躍し、カーリングの「そだねー」も昨年の流行語大賞に選ばれました。

さて、氷見市民病院はといたしますと、この1年間大きな事故もなく、つつがなく過ごすことが出来ました。本院は学生や研修医の教育を行なう大学付属病院としての役割と、救急医療を行ない、僻地巡回診療を行なう地域の基幹病院としての役割という二足の草鞋を履いておりますが、何よりも氷見市の基幹病院

として、氷見市民の命と健康を守っていくことが最も重要な使命と考えております。

CEOとしてこの病院に着任して10ヶ月になりますが、本院の医療スタッフは皆、真面目でよく働くと自負しております。本院に寄せられる投書箱や患者アンケートを見てみますと、内容の9割は患者さんからの医療スタッフに対する感謝とお礼の言葉が綴られています。昨年の7月よりこれらの内容を職員掲示板 (Sounds good、いいね掲示板) に公表しております。この結果を1年間集計して、来年は最も多く誉められた部署や個人を表彰したいと考えております。

今シーズンは氷見の寒ブリが豊漁とのことで、漁獲量も多く、ブリのサイズも大きいそうです。寒ブリがとれると氷見の街全体が元気になり活気づきます。寒ブリ、来い、来い、もつと来い。



病院長
梶 博久



明 けましておめでとうございます。今年 は平成最後となり、5月からは新たな年号になると伝えられております。新たな扉が開かれるのを謹んでお迎えしたいと思います。

金沢医科大学氷見市民病院は、当初から目指しておりました「がんセンター」の整備に取り掛かってまいります。がん診療に必須のPET-CTの導入を進めることが緊急課題となっております。さらに、放射線治療も含めがん治療を集中的に行える施設の整備も急務となっております。これらのことが整えられれば、がん診療の柱である手術、放射線治療、化学療法を、ほとんど全身のがんに

ついで行えるようになります。

また、昨年京都大学の本庶教授がノーベル賞を受賞された「がんの免疫療法」につきまして、本院でも全身多くのがんですすでに治療が始まっておりますが、「がんセンター」の整備によりこの免疫療法にますます弾みがつくと思われまます。

本院の特徴は、医学生、初期研修医、専門研修医の教育の場であることです。臨床実習の医学生、研修の若手医師が日々院内で活動しております。本院に來られましたら、このような学生、研修医を見かけられることもあるかと思ひます。知識、経験ともまだまだ不十分ではございますが、将来の医療を担う貴重な人材でございます。たまたま彼らが皆様の担当になりましたら、是非暖かい目で見守っていただき、叱咤、激励をお願い申し上げます。

市民の皆様におかれましては、今年もご健康でござ幸な日々になりますことを祈念申し上げます、新年のご挨拶に代えさせていただきます。有難うございました。



手術室ってどんなとこ？

手術部は「手術を受ける患者さんやご家族の方に安心して安全・安楽な手術を提供できる」をモットーに医師、看護師、臨床工学技士、放射線技師などが各分野の専門性を活かし、患者さん中心の医療を提供できるように取り組んでいます。

手術室は主に整形外科の人工関節手術を行う「バイオクリーンルーム1室を含めて5室で一般・消化器外科、胸部・心臓血管外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、耳鼻いんこう科、眼科、歯科口腔外科、形成外科、皮膚科の手術を行っています。



全身麻酔対応の場合は、麻酔科医とカンファレンスを行い、スタッフ間で患者さんの情報を共有しています。また、看護師は担当患者さんへの手術前訪問、手術後訪問を行っています。手術前訪問では担当であることを伝え、パンフレットを用い手術室入室から麻酔導入までの流れを説明し不安の軽減に努め、手術後訪問は担当した看護師が病室に伺い手術への要望や改善点を聞かせて頂き手術看護に活かしています。最近では、手術を待つご家族の不安を軽減するため手術の経過をお知らせする手術中訪問も取り組み始めました。



手術部長脳神経外科高田久教授に聞く!!

『脳神経外科手術に関するQ&A』

安全な手術を行うためにどのようなことが行われていますか？

安全な手術を行うために、準備は手術前から始まり、手術後にも続きます。手術前日の3種の神器『レントゲン予約・輸血予約・抗けいれん薬の予防投与』を毎回唱えながら準備します。手術直前には、左右の確認・手術体位の確認・無影灯の調整等を確認します。手術中には、止血は完全か確認します。手術後管理は専用の部屋で、血圧・呼吸・痙攣の有無・瞳孔の大きさ・麻痺の有無等々を注意しながら慎重に経過を見ます。『患者さんの手を握って暖かくなっていれば大丈夫』という先輩からの教えを頂いたこともあります。

外科医としての心構えはありますか？

手術は3回行う。1回目は手術前日、2回目は手術本番の手術、3回目は手術記録です。

1回目の手術は、様々な種類のレントゲン写真を並べて、長さや深さを測定し、補助線を書

きこみ、開頭する範囲や皮膚の切開の大きさなどを検討します。

脳の表面の静脈の走行を参考にしながら、地図を作製し、どこから脳の中に入って行くか決めます。このシミュレーションこそが大事で、今でも頭の中で1回目の手術を行います。

2回の手術は、本番です。

3回目の手術は、実際に見たものやビデオ等を頼りに、出来るだけ正確に絵を描き、1回目の手術との違いや反省点を書きこみます。

何か一言ありますか？

これからも患者さんに安心して安全な手術が出来るように努めていきます。これからもよろしくお願い致します。



手術部部长 高田 久

診療コラム

専門・認定看護師

老人看護専門看護師

中村 美穂

高齢者は、生活習慣病だけでなく、運動機能や身体機能の衰えや様々な疾患を抱えています。身体や認知機能に個人差がとて多く、また、治療の合併症や治療薬の副作用が出やすいことも特徴です。老人看護専門看護師は、こうした特徴を十分にふまえて、多職種と共に、年齢を重ねて生きてこられた高齢者の尊厳を大切に、その方や家族に応じたケア、生活の支援をしていくことが役割です。

現在、泌尿器科外来に勤務し、高齢者や、その家族の方がその人らしく生活していけるよう、お手伝いをしています。また、毎週木曜日には、心身医学科医師、作業療法士、外来・病棟看護師とリエゾンラウンドを行っています。リエゾンラウンドは、病気や環境の変化によって、せん妄（時間や場所が急にわからなくなり、注意力や思考力が低下して様々な症



状を引き起こすことの発症や認知症の症状が悪化した方の病棟に直接訪問し、症状の改善や合併症を予防し、安全・安楽にすごしていただけるよう多職種と共に活動しています。

緩和ケア認定看護師

高坂 正代

緩和ケアとは、病気に伴う身体と心のつらさを和らげ、その人らしく生きていくことを支えるケアのこと

です。緩和ケアは、治療が難しくなってきたから始めるものと誤解されやすいですが、緩和ケアを始めるのは病状が進行してからではありません。患者さんの苦しみや不安は、がんが診断されたときから始まっており、近年「がん」と診断されたときから緩和ケアを始めることが重要であると言われています。がんが診断されたときから緩和ケアを始める最大の目的は、がん治療を円滑に進め、治療の効果をより高めるためです。進行がんの8割以上の患者さんが、痛みなどの症状を抱えておられます。我慢してしまわれる方も多いのですが、痛みがなくなれば毎日の生活が楽になり、治療もがんばれます。最近の研究で緩和ケアを受けることでQOL（生活の質）が向上し、生命予後が延長することも明らかになってきました。さらに今日では、がんの患者さんご家族だけではなく、神経難病、慢性心不全など非がんの方も対象となりました。

私は2017年に緩和ケア認定看護



師の資格を取得し、現在消化器科外来・化学療法室で勤務させて頂いています。緩和ケア認定看護師の役割は、治療や疾患そのものによる身体的な苦痛、精神的な苦痛、社会的な苦痛、スピリチュアルな苦痛に目を向け、少しでも苦痛が和らぐようケアしていくこと、そして患者さんご家族に寄り添いながら、患者さんの「その人らしさ」を大切に、その人らしく生きぬくことを支えていくことです。また緩和ケアに携わる看護師の指導・相談を通して、当院における緩和ケアの質の向上に努めていきたいと思っております。

不安なことや苦痛な症状がある時は、ご相談ください。

MRI機器が 更新されます

MRI更新のため、搬入・搬出及びその準備等で昨年よりご迷惑をお掛けしております。

平成31年3月より新しいMRIで運用を開始いたしますが、その機器についてご紹介させていただきます。

当院に新たに導入されるMRIは最新型のシステム(GEヘルスケア社製 SIGNA Artist 1.5T)であり、解像度の向上・検査時間の短縮などが可能となります。

また、開口径が従来(60cm)よりも10cm広い(70cm)ため、検査の際の圧迫感を低減。頭部領域の小さな疾患や整形外科領域、腹部領域などの全身各部位の診断に役立ちます。

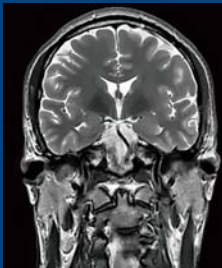
従来のMRIは検査音が非常に大きく、ご迷惑をお掛けしておりましたが、静音を可能とした画期的な技術「SILENT SCAN」を搭載しております。

MRI検査について不明な点や不安なことがありましたら、お気軽に当院医師または放射線技師にお尋ね下さい。

検査について

MRI検査はベッドに寝ているだけで体の向きをかえることなく、様々な断面の撮像が可能です。造影剤なしでも血管撮像が可能といった特長があります。(検査内容によっては造影剤を使用することがあります)

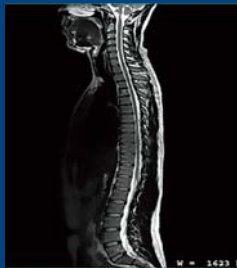
< MRI検査による画像例 >



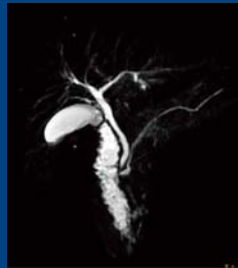
頭部画像



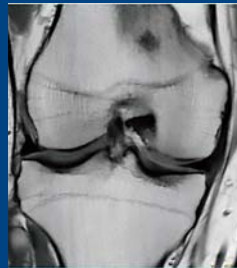
MRA (頭部血管)画像



全脊椎画像



MRCP (胆管膵管)画像



膝関節画像



SIGNA Artist 1.5T

超伝導磁石式全身用MR装置

(GE社製)

—特徴—

高いSNRIによる高分解能イメージング

- 各種定量マッピングによるマルチパラメトリック診断 MAGiCやCardioMapsなど、全身各領域における定量マッピング機能
- スキャン時間の大幅な短縮
- HyperSense(ハイパーセンス)
圧縮センシング技術を応用して少ないデータサンプリングから高分解能画像
- HyperCube(ハイパーキューブ)
位相方向のFOVを小さくすることで撮像時間を大幅に短縮します。特殊な抑制パルスを用いるので折り返しアーチファクトの影響が無い
- HyperBand(ハイパーバンド)
マルチバンドRF励起技術DWI/DTI撮像に応用し、複数スライスと同時に励起・データ収集することで撮像を高速化する
- 様々なアーチファクト抑制
患者の体動や呼吸、金属インプラントなどによる、様々なアーチファクトを低減するアプリケーションを搭載

注)

1. 検査時間などは検査内容に異なりますので、ご確認ください
2. 静音検査は全身すべて静音検査ではございません。ご相談ください

秋の叙勲受章

平成30年秋の叙勲が11月3日に発表され、小島ひとみ教育研修・職員支援室長が「瑞宝単光章」を受章されました。小島室長は昭和56年に氷見市民病院に入職され、看護部長などを歴任し、看護師として37年にわたり氷見市医療の発展のためにご尽力されました。

今回の受章は小島室長の厚生分野での多年にわたる功績に対して授与されたものであり、私たち同じ医療に携わるものとしても、今回の受章は誇らしく喜ばしいかぎりであります。

受章に際して小島室長より一言

平成最後となる三十年秋の叙勲に際して、はからずも「瑞宝単光章」の栄に浴しましたこと、これもひとえに皆様の長年にわたる心温かいご指導・ご支援の賜りと深く感謝申し上げます。看護業務に四十年以上携わり、「やる



からには頑張る」「変化を捉え、思いやりをもって行動する」ことを心がけてきました。

役割や意味は時の流れと共に変化し、人生の色々な分野で当てはまりません。公的な役割の中で社会貢献を果たしたということで叙勲を賜ったものと思っております。「日々是好日」と自分に言い聞かせ、今後この荣誉に恥じないよう精進してまいります。

クリスマスコンサート開催

平成30年12月1日(土)1階外来待合室において、りんごステーション(20

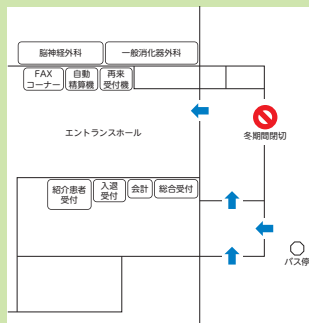


代の若手看護師によるサークル)が企画・運営したクリスマスコンサートが開催されました。今回は、りんごステーションメンバーに加え、5階西病棟看護師の越後さん、元当院職員で現在訪問看護師として活躍している八箇さんが出演しました。「糸」や「川の流れるように」など6曲の他に、りんごステーションメンバーによるハンドベルの演奏も行われました。入院患者さんや、ご家族、通所リハビリに通って

病院からのお知らせ掲示板

● 玄関の閉切について

当院正面玄関は、院内の気温を維持するため冬季閉鎖いたします。正面玄関左手にあります風除室から来院下さいますよう、ご協力をお願いします。



● マスク自動販売機の設置について

当院では、マスクの自動販売機を院内に3台設置しております。設置場所は、エントランスホールTV横・救急外来入口横・2Fエスカレーター降り口です。マスク2枚入100円で販売しておりますのでインフルエンザなど感染予防のためにもご利用ください。

● 冬季の駐車場利用について

冬季は、積雪や凍結が起こり、駐車場や構内道路での転倒や自動車事故が多く発生いたします。当院でも職員による除雪作業を行い、危険が少なくなるよう努力しておりますが、来院される皆様も、滑りにくい靴を履き、足元に十分注意して歩かなど転倒に気をつけていただきますようお願いいたします。

また、自動車で来院される場合は、雪などで視界が悪くなったり、路面が凍結しスリップしたりしますので、駐車場や構内道路では最徐行を徹底していただきますようお願いいたします。

る方など、約50名と楽しい時間を過ごしました。参加されていた方も一緒に口ずさむなど、「入院しても、クリスマスを感じる事ができた。気分転換ができた」など感想が聞かれました。りんごステーションでは、今後も患者さんの心身を癒し、入院生活を快適に送れるようイベントを開催したいと思います。

病院運営の基本方針

1. 患者さん中心の病院運営を行います。
2. 安全で信頼される医療の提供に最善を尽くします。
3. 患者さん・ご家族への「説明と同意」を徹底します。
4. 高度医療、質の高いチーム医療を推進します。
5. 地域の中核医療機関として地域医療連携・支援を推進します。
6. 良医の育成と医療人の教育・研修を推進します。
7. 働き甲斐のある健全で活力ある病院づくりに努めます。

患者さんの権利

当院は医療の中心は患者さんであると認識し、患者さんには次のような権利があることを宣言します。

- 安全で良質な医療を公平に受けることができます。
- 病気や治療内容について、分かりやすい言葉で説明を受け、ご自分の希望や意見を述べるすることができます。
- ご自分の意思で治療方法や医療機関を選択することができます。
- 診療記録の開示を求めることができます。
- 他の医療機関に受診することを希望されるときは、必要な情報提供を受けることができます。
- プライバシーは尊重され、個人情報は厳重に保護されます。
- 臨床研究に関して十分な説明を受けたうえで、その研究に参加するかどうかご自分の意思で決定できます。また、いつでも参加を取り消すことができます。
- 治療に関する自己決定の参考にしていただくため、セカンドオピニオンを受けることができます。

患者さんへのお願い

当院は、地域の中核病院としての社会的使命を果たすため、様々な医療を提供しています。患者さんには、次のことをご理解いただき適切な医療を行うためご協力くださいますようお願いいたします。

- 健康状態、その他必要なことを可能な限り正確にお話してください。
- 説明を受けてもよく理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 治療を受ける場合は、医療スタッフの指示に基づき療養してください。
- 病院のルールを守り、他の患者さんの迷惑にならないようご配慮ください。
- 教育病院として、医師、医学生、看護学生、医療専門職の学生、救急救命士などの臨床実習・研修教育を行っております。厳重な指導のもとに実施していますので、ご理解とご協力をお願いします。

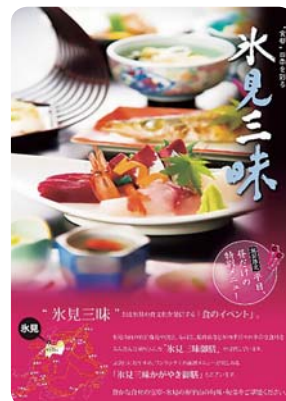
まちかど情報

氷見三昧御膳 秋冬編が開催中です!

“氷見三昧(ひみざんまい)”とは?

氷見の食文化の発信を目的に、市の民宿や割烹、寿司店などが四季折々の多彩な食材をふんだんに盛り込んだ「氷見三昧御膳」を提供する食のイベント「食都(しょくのみやこ)四季を彩る氷見三昧キャンペーン」のことで、市内の29店舗が参加しています。

氷見漁港で水揚げされた魚介類や氷見牛、地産野菜などを食材に、各店の料理人が腕を振るい、期間限定・平日昼だけの特別メニューで提供しています。



今回私が訪れたお店では、地元の食材をふんだんに使った前菜や刺身盛り合わせ、蒸し物、天ぷら盛り合わせのほか、冬の味覚の王様である寒ブリを使った鰯大根や鰯しゃぶなども提供され、氷見の味を存分に味わうことができました。

氷見三昧御膳は訪れる季節や各店によってメニューが異なるそうです。みなさんも地元の味覚を堪能してみてくださいはいかがでしょうか。

秋冬編は2月末まで開催しています。参加店情報がまとまったパンフレットは参加店のほか氷見駅、番屋街、新高岡駅などの観光案内所で入手できます。

- お問い合わせは
一般社団法人 氷見市観光協会 0766-74-5250
または、氷見市観光ポータルサイト
「きとくとひみどっとこむ」
www.kitokitohimi.com で検索ください。



表紙について

毎年、当院正面入口に門松を設置しています。その時代や地域により形態は様々ですが、設置する理由は「幸福を呼ぶ神様を家に迎え入れるための目印」であり、時代や地域による変化はあまりないそうです。一人でも多くの患者さんが笑顔で帰宅できるよう、そして、氷見市の医療を支えるべく、平成31年も職員一同精進いたします。

編集後記

今年も寒い冬がやってきました。体調が変化しやすい季節であるため、皆様体調には十分注意し、うがい・手洗いをしっかりとしましょう。

また、皆様からのご協力をいただき、広報誌『かけし』を無事に発行することができました。ご協力・ご支援頂いた皆様に深く感謝いたします。今後とも広報委員会をよろしく願っています。



かけし冬号編集委員 胸部心臓血管外科 町田 雄一郎

■広報誌「かけし 氷見」の由来

広報誌が患者さんと病院、地域と病院をつなぐ“かけし”となることを願って命名されました。